

## R4. 2. 1 (火) 6年生総合的な学習の時間

### ～泉芳朗先生のゆかりの地をめぐって～

6年生は、これまで、戦後の奄美大島について調べ、学習発表会で発表し、郷土の先人の方々の復帰への願いを感じながら、郷土愛を深めてきました。

今回は、おがみ山、名瀬小学校、高千穂神社をめぐり、奄美の日本復帰に尽力した泉芳朗先生に思いを馳せました。





おがみ山では、泉芳朗先生の胸像に手を合わせ、市内を一望したあと、泉芳朗先生の胸像の前で、これまで練習した「断食悲願」を朗読しました。





名瀬小学校では、実際に泉芳朗先生が復帰祝賀集会で、実際に立って演説した場所に立ち、「断食悲願」を朗読しました。

様子を見ていた名瀬小学校の児童からも拍手をいただきました。また、名瀬小学校の校長先生からも、あたたかい励ましの言葉をいただきました。





名瀬小学校の次は、泉芳朗先生が実際に断食悲願を行った、高千穂神社に移動しました。神主さんから、その時の貴重な写真を見せていただきながら、当時の様子について説明を聞きました。





最後に、神社で「断食悲願」を朗読しました。みんなの気持ちもそろって、聞いてくださった教育委員会の先生方も感動してくださいました。奄美に生きる私たちにとって、とても意味のある学習だったと思います。

断食悲願 詩 泉 芳朗

ここは北緯二十九度直下  
奇妙不可解な人為の緯線が  
のろわれた民族の死線に変わろうとしている  
目に見えない首枷をつくろうとしている  
たえがたい責苦の檻になろうとしている

されどこの土 歴々やまとあまみこの国  
町の奥がに敵々 高千穂の社はそびえ  
大祖伝承の神域に今わたしは端坐している  
仰げば脈々たる樹枝  
天冲に合掌して  
二十余万の民の大悲を訴えるに似ている

わたしはただ一介瘦身の無名詩人  
樹間に湧く無量の感に涙しぼり  
地に満つる落葉や雑草にも  
無情の声を呑み  
天かける白雲に  
うたた民族流離の歌をきく

よしや骨肉ここに枯れ果つるとも

八月の太陽は  
燦として 今 天上にある

されば 膝を曲げ 頭を垂れて

奮然 五体の祈りをこめよう

祖国帰心

五臓六腑の矢を放とう

(内容)

ここ北緯二十九度以南の奄  
美群島が、戦争に破れ、二、  
三宣言という指令により、祖  
国日本から切り離されて、ア  
メリカの行政下におかれ、権  
にとじこめられたような苦し  
い時代をむかえた。

だがこの島とは、もともと  
大和の国、日本の国土であり  
日本人としての長い歴史と誇  
りをもっている。町の奥がに  
は高千穂神社の森がそびえ、  
その境内でわたしは断食をし  
て二十余万群民の悲願を訴え  
ている。

わたしはやせほそつた名も  
ない一詩人だが神社のうっそ  
うとした森の中に神の声を聞  
き、落葉や雑草の中に悲しい  
涙をくみとり、天かける白雲  
に民族流離の歌をきく。

たとえこの身はこのまま枯  
れ果てていつても、八月の太  
陽は燦々として天上にある。

されば膝を曲げ頭を垂れ  
て、祖国復帰の祈りをこめ  
よう。

祖国へ帰るその日まで生命  
をかけて訴えつづけよう。